

とびっく 教育現場の「今」を語り、「明日」を考える 「ぐんま教育ちよっとチャット7.10」開催

夏休みまであとわずかな7月10日、オンラインによる会合「ぐんま教育ちよっとチャット」が開かれました。これは、「多くの人が集い、交流し、さまざまなものを創造する」というフォーラムの趣旨のもと、現状とこれからの教育についての情報交流の場として、新たに立ち上げたオンラインイベントです。今回は、ぐんま教育文化フォーラムから5名、群馬高教組から4名の参加者により、様々な内容の「チャット（おしゃべり）」が、たっぷり二時間交わされました。では、その模様を「ちよっと」だけご紹介しましょう。

利用は人それぞれ、授業スタイルが変わった人も

高校でのICT機器の利用状況

現職Aさん 本校ではインターネット環境がない家庭もわずかにあり、持ち帰り使用での配慮が必要です。Chromebook(クロームブック：群馬の県立高校で生徒に貸与されたICT機器の名称、グーグル仕様の小型ノートPC)の使い方としては、メールでのやりとりや宿題・ミニテストなどの配信、アンケートの実施、自作教材の教室での投影などです。グーグルのアプリを使うとこれらを手軽にできるのがメリットです。以前とだいぶ授業スタイルが変わった先生もいます。

現職Bさん 本校では、ホームルームの連絡事項を配信したり、コロナでできなくなった全校集会や生徒会行事の映像を教室で流すのに用いたりしています。機器の操作は生徒たちの方が慣れてしています。授業では、調べ学習や課題研究に利用したり、確認テストの配信をしたりする教科もあるようです。校内のネット契約



が、全校生徒の25%の同時利用を上限としていることが最近判明しました。今年度中には今の6倍の通信量まで増強する予定とのことですが、他の県立高校でも同様と思われます。

現職Cさん 本校では、教員対象のICT研修が最近ありました。利用状況は教員各人により様々です。学校評議員会の席上、ICT利用を前提とする学校目標に対してあくまで手段であるICTを目標にすることへの疑義が評議員から出され、至極まっとうな意見だと思いました。高校の管理職には県教委からICT利用の数値目標が課せられているようで、人によっては大きな意識の差を感じます。個人的には授業に動画を利用したいと思っていますが、同一内容の授業を複数の教員が同時進行するため、独自のやり方でICTを使うのが難しい状況です。

現職Dさん 本校では、BYOD(Bring your own device：私物の機器を日々の活動に使用すること)により生徒全員がiPad(ICT機器の一つ、アップル社製のタブレットPC)を使用しています。個人購入ですが就学支援金で費用は補填されます。現在通信環境が未整備のため、限られた機器を使って授業に利用しています。アプリによっては自分のレベルにあった内容を自分で選んで進めることができたり、教材によっては多様なメディアを利用できたりして、工夫次第でメリットが大きいと思います。

現職Aさん 群馬の県立高校では、ICT機器に関して費用の個人負担はありません。スタディサプリ(リクルート社による学習支援サービス、県で一括加入)の利用料金も現在の所、個人負担はありません。しかし、4、5年先にはICT機器の無償貸与はなくなるとのことです。今配布されている三学年分の機器が「一回り半」した後は、各自で用意した機器を使う体制に移行するようです。

導入は比較的スムーズ、活用はさまざま

現状についての質問あれこれ

フォーラムAさん ICT機器使用に関わる悪用事例やマイナス効果はいかがですか。

現職Dさん 学校での利用は、GSN(群馬県総合教

育センターにサーバーを置く「ぐんまスクールネット」) 経由でネット接続するので、心配ありません。すでに子どもたちはスマホを持っており、ネットトラブルや悪用防止への喚起と対策はある程度進んでいます。

フォーラムBさん 義務校ではタブレットの持ち帰りや管理が問題となっているようです。県内市町村の内、持ち帰りOKが6割、残り4割は不可だそうです。高校での使い方についてはどうでしょうか。

現職Aさん 年度初めに学年単位で初期設定と使用方法のレクチャーを情報科職員が行い、当初は数件のトラブルもありましたが、現在は落ち着きました。

現職Bさん 生徒については本校も同様です。4月にスタディサプリの教員対象講習会がリクルート社員によって実施されました。



授業で自分の色を出すには

ICT 機器を授業で使うことの意味

フォーラムCさん もし現場に自分がいたら困るだろうと思います。自分の流儀で授業をしたいのに、機器を使うようになったらうまく使えるかどうか不安です。肩身が狭い思いをしている人もいないのでしょうか。

現職Aさん 好きな人はどんどん使っていますが、その対極にいる人もいます。上手に使っている人の中には、アンケート集計など授業以外での活用に長けている人もいます。

フォーラムDさん スタディサプリの導入に不安を持つ意見も聞きました。授業の仕方が自分の自由にならないことのデメリットがあるのではないのでしょうか。また、機器の個人負担が増えるなどの問題も、将来的に問題だと思います。

現職Dさん ICT 機器の導入には、個人的には前から興味があり、さほど違和感はありませんでした。個々の中にある必然性やモチベーションによるところが大きいと思います。

現職Aさん 先日、ICT を利用した授業のアンケートをしたら、スマホ慣れしている生徒にとって概ね好評でした。ただ、テスト前の宿題の取り組み状況とテストの成績の間に相関が見られませんでした。面白いと思って学習の定着状況とは別なのではないのでしょうか。また、実験や観察にはネットの動画より実物の方に力があると感じています。先日、生きたザリガニを使って血液の色が人間とは違うことを、実物を通して示しました。PCを使うとノートを作るのは楽ですが、授業にその人の色が出ないことが問題です。PCだけに頼ると学習は深まりません。試行錯誤しながら自分のやり方を見つけることが大切です。

現職Dさん デジタル教材をこなせば授業は成り立つでしょうが、そのまま使うのでは自分の色は出ません。道具は使い次第で役にも立つが、数値目標などを押しつけられては意欲も意味も失せてしまいます。

これからの変化に注目

高校入試・部活動・教職員の雇用のこと

フォーラムCさん 高校入試の県教委の改善案に対して、現場の先生方の気持ちはどうですか。生徒の受け止めも気になります。

現職Dさん 定時制にいたので全日制の入試状況についてあまり承知していませんが、かつての採点の体験から言えばミスが起こることは当然考えられることです。入試の一本化は今まで高教組でも要求してきたことですが、簡略化すること、さらに言えば入試をなくすことも考えるべきではないのでしょうか。入り口にばかりエネルギーをかけるのではなく、どの学校に入ってもきちんとした教育が受けられることを目指すべきだと考えます。

現職Bさん 入試の一本化について校内でも紹介されたが、工業高校でも点数による序列化が進んでいて、一本化でもそれはなくなるのではないかと思います。受検生にとってはやりたいことではなく入れそうな所を進学先に選ぶ風潮が強くなっています。また、定員割れを心配する管理職により、どう生徒集めをするかが常に突きつけられているのが現状で、一本化によりそれがどうなるかが気になります。部活動の実績が可否の判定材料になっていた今までの状況が、今度の入試の変更でどうなるかを非常に心配する部活動顧問もいます。

フォーラムCさん タブレットなどにばかりお金を使っていますか、教職員定数についてはどうなってい

るのですか。先生は足りているのですか。

現職Bさん 相変わらず本校では地公臨（年度毎雇用の教職員）の人がたくさんいます。正規採用者が増えず、若い地公臨の人が多いため、採用試験のこの時期は校内がピリピリしています。

現職Dさん どこにお金をかけるかが問題です。現在、学校と部活動とを切り離すとの動きはあっても、現実の教員採用の場面や高校生就職試験の際に、部活動から離れられない現状があります。

現職Bさん 今日午前中に学校に行ったが、駐車場は満杯。コロナ以前の状態に戻りつつあります。今後コロナのことが心配です。



どのように授業を進めるか

「教育の自由」とは

フォーラムDさん 雁木さんの文章（「現代思想4月号所収の論考「加速する学びから身を引くことーコロナ禍における高校英語教育の現場から」雁木聡筆）について、共感するところが多くありました。英語では「使える英語」を目指して学習指導要領が変遷していますが、それによって、しっかり英語を読むことができない大学生が増えていることが大きな問題です。

フォーラムAさん 雁木さんの主張にほぼ同意します。「役に立つ英語」に目を奪われ、日常会話の例文をいくら覚えても意味はありません。ブロック解釈で進める私の英語の学習方法に感謝するかつての教え子の言葉が耳に残っています。

フォーラムDさん 言語学習の問題だけでなく、学び全体にイえる質に注目すべきではないでしょうか。どんな教科でも実用的に対応するだけでなく理論的に思考力を高める工夫が大事で、今の学びはそれが軽視されています。

現職Dさん 雁木さんの文章について、かつての授業形態を全面的に肯定しているものと考えるといささか異論があります。ICTにしてもアクティブラーニン

グにしても、それに向かう教員の姿勢に尽きるのではないのでしょうか。雁木論考に登場した会話重視の授業形態は、アクティブラーニングとよばれるものの一部ではあっても全体ではありません。文科省から押しつけられたものもその一部であり、アクティブラーニングが取り沙汰される以前から学びの共同体などで提唱された深い学びの現場には、表面にはあらわれない思考の動きがあります。ある事柄に対して、生徒がどう考え、どう表現したかに注目すべきです。教員の先入観や到達目標で、個々の生徒の内部にある思考を判断すべきではありません。今までのように到達目標があつてそれをきちんと伝えられるかどうかの問題となる学びではなく、全く新しいものを身につけてゆく学びの形が到来しているのではないのでしょうか。

フォーラムAさん 雁木さんのいう、「密になり、前のめりに加速する教室空間で『分かったつもり』を量産することは、いずれ大きなクラッシュを起こす」ことになる教育現場と、資本主義の行方とは大分重なっているのではないかと思います。

フォーラムBさん 「分かったつもり」に関して、ラーニングとティーチングの統一を図ることはこれまでずっと論議されてきた古典的なテーマです。教えることが前面に出て学習が保障されない状態でも、教える質が高ければ生徒の覚醒もあり得ます。試行錯誤の段階にあるアクティブラーニングが急にもはやされるようになった背景も、入試の動向などさまざまなことが考えられますが、教師の特性や個性を中心に進めることで教育に活路が見いだせるのではないのでしょうか。つまり、教育実践の自由がどれだけ保障されているかに尽きるのではないのでしょうか。

現職Dさん 同感です。何より、上から押しつけられることが問題です。新しい手法に対してそれを拒否することも自由だし、それを自ら受け入れる自由もあります。個々の教員のモチベーションや内的必然性に従い、それぞれのスタイルを探りながら授業を行うことが教育の自由です。それが失われつつある今の状況には危機感を覚えます。

進行 今回の「ちょっとチャット」では、短時間でしたが、日頃のできごとから教育の本質論まで多彩で奥深い話題を出していただきました。みなさん、ありがとうございました。

（文中の図は、いずれもイメージカットです。）